



持続可能型(低炭素・循環)の国際的拠点

国際動力技術先進圏域・ECOあいち

グループ名：2030あいちNEO共立社会づくりチーム
 メンバー：木村香奈子、進藤 剛、河野嗣寿、永田佳史
 チュータ：加藤丈佳、大坂侑吾

現状の把握(課題認識)

経済と環境が共に成り立つ社会作りのために、道州制の2030年の愛知を考える。(仮説)

- ①地球規模の環境保全是、世界共通のあたりまえ
- ②資本主義経済と循環型社会はさらにグローバル化
- ③資源のナショナリズム化

「開発」・・・国際的拠点化競争
 「商品化(生産)」・・・生産拠点(雇用)の奪い合い

グリーン・ニューディール政策を意識して

2030年に向けての提言の概要

環境は世界共通のあたりまえを背景とした、国際間の高度化する技術開発競争と各分野のイニシアティブ争いに向けて

選択と超集積
 超集積とネットワーク
 カテゴリーキラー志向・ニッチ志向

の戦略(ビジョン)と戦術(施策)により

自動車・航空宇宙の世界的拠点だからこそ目指せる

国際動力技術先進圏域・ECOあいち

強い産業分野をより強く、強い産業分野から新しい産業の創出により、2030年の「愛知はいらいしい!」を創り出す

提案の内容

「3つの軸」と「5つのコアコンピタンス」で戦術(施策)を展開

「3つの軸」・・・

炭素排出、エネルギー消費を抑えた

モノづくり、製品ができてから考えるのではなく、できる前に考える資源循環、低炭素に貢献する商品をより多くの人に使ってもらう普及



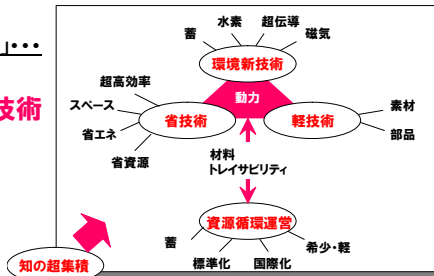
「5つのコアコンピタンス」・・・

モノづくりのキーワード

環境新技術・省技術・軽技術

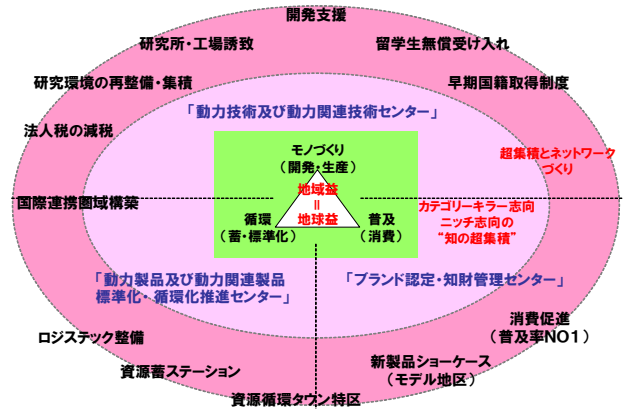
循環のキーワード
 資源循環運営

人のキーワード
 知の超集積



提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

3つのセンター(知の超集積)を中心に、「環境新」「省」「軽」による開発・生産関係施策、蓄・標準化の「資源循環運営」関係施策、そして、消費を引き出す普及策を展開



波及効果

2018年を道州制導入年と想定し、2010年から着手、2015年には、国際連携協議の成立を目指し、2020年に第1期整備完了目標とする。
 目標年として2015年から2020年に、持続可能型(低炭素・循環)の国際的拠点となることを達成し、

「環境」に関与した「優位性のある産業がある」「企業進出がある」ことにより、「収入(仕事)がある」「暮らし向きが良い」県(地域)となる正の連鎖を創り出す。

